

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	トポロジカル相でのバルク・エッジ対応の多様性と普遍性：固体物理を越えて分野横断へ
研究代表者	初貝 安弘 (筑波大学・数理物質系・教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>本研究は、応募者がこれまでの研究で、実績を上げてきたバルク・エッジ対応の物理を、対象物質や分野を拡大して更に発展させようという意欲的なものである。古典電磁気学、古典力学、更には数学にまで及ぶ共通の学問基盤を確立させようとする試みは高く評価できる。研究組織間の交流を不断に推進する体制をさらに強化することにより、高い目標達成が期待される。</p> <p>以上の理由により、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>